

浄土

monthly JODO

2020
78

July
August

大の 塔ッ ダガヤ

写真で訪ねる
インドと釈尊

①



大変珍しい18世紀の大塔の写真。左の塔は現在には残っていない

釈尊が悟りを得た菩提樹の下の方座、その横には大塔がそびえている。まさに世界中の仏教徒の聖地のシンボルであり、今も多くの信者がこの地を訪れている。



大塔脇の金剛座。ここに座って釈迦は悟りを得たとされる



1958年、デリー大学へ留学していた当時の佐藤良純師と大塔



金剛座は今は棚で囲まれている



2018年の大塔。左手前が佐藤良純師

出家する

やがて釈尊は出家するが、動機についてはいくつかの説が伝えられている。

一つはまだ幼児のころ、父の王の耕運祭（コメ・麦）についてゆき、木の下に休んでいる時、小さな虫が大きな虫に食べられ、その虫が鳥



弟子入りの儀式。
釈尊時代と変わらず今も続いている

に食べられるのを見て自然界の厳しさを知ったから。また、四門出遊の物語も広く知られている。ある日釈尊は城の門を出ると老人に出会い、別の門を出ると病人に出会い、次の門を出ると死者に出会う。そして最後に出た門で出家者と出会い、家を出ることを決意したというもので、南方上座部の寺院にはこの物語の様子を記した壁画が多く残されている。

釈尊の出家は29歳と言われ、釈尊は多くの出家者のもとへ訪れる。仏典には当時の出家者のことが記してあり、多くのバラモン教の聖者や、バラモン教以外の6人の著名な思想家などで、人は無機物からできている、（心はない）倫理・道徳は存在しない、人を殺しても構わない、など極端な思想を持っている出家者もいたという。

釈尊も多くの人々に教えを乞うた。まず初めにアーラーラ仙人、次にウツダカ仙人を訪れるがいずれにも満足できず、一般的な修行法の苦行に落ち着く。これは人が肉体（物質）

インド渡航歴40回超！

佐藤良純の

弟子入り後に行われる入門式



を痛めれば心（精神）が清まるとの考え方である。苦行には断食、不眠、片足で長い時間立つ、などがある。原語はタバス（熱）で、苦行がエネルギーを生むとの考えである。苦行は7年に及んだが、悟りにはほど遠いことに気付き、村の娘スジャータから供養の乳がゆを受け、菩提樹の下で瞑想にふけた。瞑想中に男女の悪魔の軍勢の誘惑が現れるがこれ

を退ける。やがてヴェーサカ月の満月の日に悟りをひらいたと伝えられている。

釈尊が苦行を捨てたのを見て、共に苦行をしていた人々は釈尊が堕落したと思い、釈尊のもとを去っていく。

今日、悟りを開かれたブッダガヤは仏教徒にとつて第一の聖地となり、毎年、タイ、ミャンマー、スリランカ、日本、マレーシア、台湾、その他の国々から数十万人の人々が訪れる。また、日本寺、カンボジア寺、タイ寺、中国寺、ブータン寺、ミャンマー寺、チベット寺、スリランカ寺、モンゴリア寺などがある。

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書は『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。

貧乏骨董

三宅政吉

グラフィック・デザイナー



表紙ノド側は補修の跡があるが、背表紙は欠落している。奥付には虫のマークの検印が押されている。初版から9カ月での三版発行だが、部数は不明。



手塚マンガのキャラクター、ヒョウタンツギがストーリーとは関係なく突然登場するのも、手塚マンガの魅力と言える。ヒョウタンツギはここでは親子(?)での登場である。

手塚マンガのキャラクター、ヒョウタンツギがストーリーとは関係なく突然登場するのも、手塚マンガの魅力と言える。ヒョウタンツギはここでは親子(?)での登場である。

手塚マンガのキャラクター、ヒョウタンツギがストーリーとは関係なく突然登場するのも、手塚マンガの魅力と言える。ヒョウタンツギはここでは親子(?)での登場である。

手塚マンガのキャラクター、ヒョウタンツギがストーリーとは関係なく突然登場するのも、手塚マンガの魅力と言える。ヒョウタンツギはここでは親子(?)での登場である。

このボロボロの手塚治虫の本を手に入れたのは、小学校五、六年生のころだったろうか。文通していたマンガ好きの山形県米沢市のS君から、なにかと交換でもらったものだ。十二歳のころだとすると、もう五七年も手元にあることになる。

手塚作品をはじめ、古いマンガの本はたくさん持っていたがほとんど売ってしまった。売り物にならないほど傷みの激しいものだけがまだ残っている。この『ロック冒険記 前編 デイモンの嵐編』(鈴木出版社/一九五六年)もそんな一冊である。B6判、ハードカバーで全三巻(中編 デイモンの混乱編、『後編 世紀の宇宙戦編』)構成、のちに同社の手塚治虫漫画選集のなかの六冊目として全一巻で発行されている。

『ロック冒険記』は「少年クラブ」(講談社)で五二年七月号から五四年四月号まで連載された。手塚の代表作とされる「鉄腕アトム」の前身「アトム大使」(『少年』/光文社)の連載が始まるのが五一年(私が生まれた年!)であるから、その一年後である。

手塚のマンガは五〇年代のものがいけば面白いというのは、わたしの個人的な好みの問題だが、壮大なテーマとヒューマニズム、自由自在なコマ割り、ユーモア、そして魅力溢れる登場人物、子どもたちはみんな夢中になった。わたしは手塚のマンガでSFの面白さのとりこになり、SF小説の世界にはまっていた。

『ロック冒険記』をはじめ、五〇年代のマンガ雑誌に連載された手塚マンガは、後年貸本屋で単行本として読むことになる。連載中は年齢的にまだ読めるはずもないし、小学生になつてからもマンガ雑誌を買うような経済的余裕のある家庭ではなかった。

手元の『ロック冒険記』もS君が貸本屋から入手したものである。

骨董品とは言えない古いマンガの本だが、次回も続けてこの本の周辺について書いてみたい。

浄土

2020/7・8月号 目次

インド写真紀行 ブッタガヤの大塔	1
連載 インド紀行③ 出家する..... 佐藤良純	2
貧乏骨董	三宅政吉 4
コロナ禍を生きるという事—町医者雑感—	大田由己子 6
【特別インタビュー】	
相談数18万件!! 正力松太郎賞受賞	
「仏教情報センター」の魅力	長谷川岱潤 10
微風吹動 厭離穢土 欣求浄土	石田一裕 16
連載 江戸の川を歩く③⑨ 霞ヶ浦(1)	森 清鑑 20
連載小説 渡辺海旭⑩⑧	前田和男 26
連載 マンガ さっちゃんはネッ	かまちよしろう 35
編集後記	36



表紙題字＝中村康隆元浄土門主
表紙写真＝鬼海弘雄
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

町医者の雑感

コロナ禍を 生きるという事

ゆき医院

大田由己子

国内での新型コロナウイルス感染（以下コロナ）が下火となり、2か月にも及ぶ緊急事態宣言が、段階的にはあるがようやく解除された。

昨年末から中国で始まったとされる感染は瞬く間にヨーロッパ全土からアメリカへ、さらに全世界へと広がり、コロナが及ぼす混乱はどの国にも容赦なく襲いかかった。そして今もお世界では感染の拡大が続き、感染者は800万人を超え死者の数も40万人以上にも及んだ。ことに医療体制が不十分な貧困層や途上国の間で深刻な悲劇が今日も続いている。

日本国内では、感染者数に比例して人々の心の中に日に日に恐怖心が増大していった。3月に入り小中高の一斉休校が始まると町からは子供たちの声が消え、4月にはついに非常事態宣言が出されるに至った。これを境に日本中で愚直なまでの「自粛生活」が始まったのである。家族や友人との他愛ないおしゃべりや食事などのささやかな楽しみ、スポーツや芸術、町の賑わいも消え、見渡す限りの世界はコロナ一色と化した。ちょうどこの頃から感染を恐れるためか町医者の外來受診者は激減。通院は不要不急のものだったのかと苦笑いする。慢性疾患を抱える高齢者は引きこもりの結果、短期間のうちに驚くほど急速に認知症状が進み、筋力は低下し日常生活にも支障をきたしている。自粛生活での不規則な食生活、飲酒量の増加、運動不足により糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病が悪化した人も少なくない。若者はやり場のないエネルギーと将来への不安から心身の不調を訴えている。町の診療所ではコロナによる二次災害が今なお拡大中なのである。

当初は違和感の強かった密集・密閉・密接の「三密」という言葉だが、最近この三密を避ける行動こそが感染拡大阻止の重要な鍵であることがわかってきた。「実行再生産数」という数理モデル指数がある。これは一人の感染者が他の何人に感染させるかを表す数字

※感染者数などは6月18日現在のもの。

で、1を超えれば感染は拡大し、1未満になれば感染は縮小する。何らかの感染症対策を行えば（例えば手洗い・うがい・マスク・消毒・接触制限）、何も対策を取らなかった時に比べて、一人の感染者から直に感染する人数は確実に減ってくるはずだ。厳密なロックダウンはせず、三密を避け、人同士の接触を減らした事によって、感染爆発寸前であった3月末には1.7→2.0であった実行再生産数は、5月になると0.5→0.7にまで減少し、感染の広がりも順調に縮小した。この背景には何があるのか。愚直なまでに続けた自粛生活、相手を気遣う心（迷惑をかけたくない、うつしたくない）、人との距離の取り方（握手やハグではなく丁寧なお辞儀）、清潔（手洗い、うがい、マスク）を旨とする日本の文化があることは想像に難くない。欧米に比べ感染者（感染が確認された数）や死亡した人の数が極めて少ないのは今や「日本の奇跡あるいは謎」ともいわれ注目を浴びている。我慢強く続けた一人ひとりの努力の結果である。

確かに不要不急の外出をできる限り避け、人との接触を少なくして家に閉じこもっているれば感染拡大は抑えられる。しかし同時に社会全体の活動度は低下し経済活動は悪化する。芸術やスポーツ、教育等々が病的に疲弊する社会は本末転倒だろう。今までと同じ日常生活を取り戻す日はまだ遠く、時代は大きな転換期を迎えている。

いまだに人に感染するコロナウイルスには6種類（冬の風邪の原因となるコロナウイルスが4種、SARS、MERSの2種）あることが知られていた。現在問題になっているのは7番目に登場した新型ウイルスということになる。このコロナは極めてずる賢く厄介なウイルスだ。人の体にひそかに侵入し、細胞の中で増殖、さらにあちこちの臓器で思わぬ動きを見せる。比較的長い潜伏期間の後（2日から7日位）、感染したことに気づかぬまま8割の人は何事もなく治癒するが、気づかぬ間に人にうつしてしまう危険がある。

また、ただらと長引く風邪症状のあと急に呼吸困難などの症状が出て、放っておくと数時間あるいは数日のうちに悪化してしまう人もいる。そして人工呼吸器やECMOが必要など重症となり、中には死に至る人もいる。致死率は0.7〜1%未満と決して高くない。また日本での死者の数は約900人で諸外国とは比べものならないほど少ない。とはいえコロナ感染者の死は惨い。病院での面会はおろか重篤となり無念の死に至った場合にも最後のお別れさえできず、納体袋に納められたまま速やかに荼毘に付さなければならぬ。数の多寡ではない。それぞれかけがえない命であったはずだ。ただ心が痛む。

ほぼ確実に、今年の秋口（早ければ8月頃）には感染の第2波が押し寄せてくることが予測され、ウイルスの強毒化（変異）も危惧されている。と同時に、迅速な診断法、ワクチンの開発、特効薬の開発、集団免疫の獲得（免疫を持った人が新たな感染に対して壁を作る）など続々と新しい知見も報告され、日々情報は更新され続けている。国境を超えた人類の英知の結集を期待したい。

コロナとの戦いにはただ一つの正解はなく、その消滅は予測することさえも難しい。未来に向けたロードマップを描くことや時代の大きな変化を受け入れることも容易いことではない。私たち一人一人ができることは少なく、またあまりにも小さい。しかし私たちはこのコロナ禍の中で多くのことを学んだはずだ。例えばオンラインを活用した新しい働き方や楽しみ方、そして様々な工夫を凝らして日々の暮らしに小さな喜びを見出す習慣、そして何よりも立ち止まって考える時間を取り戻した。ソーシャルディスタンスは大切だが人々のつながりを遮断するものではないということも知った。コロナ禍の経験と記憶を糧に、様々な変化ともうまく折り合いをつけながら、ウイルスとも共生しながら生きていく時代を迎えているのかもしれない。新しい生活様式が始まり、新しい時代もまた始まっている。

おおた ゆきこ 群馬県高崎市生まれ（浄土宗安国寺）

1975年東京女子医科大学卒業後同大消化器内科に入局 1983年医学博士

1988年外務省入省後一等書記官・医務官としアルゼンチン日本国大使館に赴任
帰国後、自治医科大学消化器内科講師、東京女子医科大学講師、大正大学人間科学非常勤講師を経て、2004年文京区本郷にゆき医院を開設、現在に至る

【特別インタビュー】

相談数、18万件!! 正力松太郎賞に輝いた 僧侶が電話で応える 「仏教情報センター」の魅力

5月20日、第44回正力松太郎賞（1977年）を
仏教情報センターが受賞した。同センターの
五代目理事長の長谷川岱潤理事長に話を伺った。



長谷川岱潤／はせがわ・たいじゅん 昭和29年東京生まれ。大正大学仏教学専攻。東京教区戒法寺住職。総本山知恩院、大本山増上寺布教師。浄土宗人権センター運営委員をはじめ、人権や同和問題に関わる各種役職を務める。また『ふじゅせん』刊行会会長でもある。

編集部 この度の正力松太郎賞の本賞受賞、おめでとうございます。

長谷川 ありがとうございます。この賞は読売新聞社の故正力松太郎氏が、自分の孫が食事に際し十字架を切ったのを見て「これは何たることか、仏教界は何をやっている」と大いに憤慨し、児童に仏教情操教育を施す個人や団体を表彰する賞として設立され、読売グループ関係各社により続けられています。

正力松太郎賞と聞くと野球選手への表彰と思う方が間違いなく多いわけですが、むしろこちらの方が歴史的には古いのです。

編集部 そんなエピソードがあるんですね。仏教情報センター（以下センター）が受賞できた理由はなぜでしょうか。

長谷川 当センターの活動（表①参照）は多岐にわたっていますが、その中核をなすのが仏教テレフォン相談です。この仏教テレフォン相談は、午前10時から午後4時という時間帯のため従来は成人の方が多かったのですが、最近は携帯電話の普及もあり、若者や青少年からの電話も増えています。

す。一方、この賞は児童教化を対象にしてきたのですが、賞の現在の主催団体である全国青少年教化協議会が、青少年教化にも目を向け始めたからだと思います。

編集部 設立とその目的からお聞かせ下さい。

長谷川 1983（昭和58）年、仏教を精神の拠り所として現代社会に活かすことを目的に伝統仏教九宗派（表②参照）の40代前後の有志僧侶（34名、電話1台）によって設立されました。2011（平成23）年に一般社団法人となりました。現在は電話相談員となる正会員、そして会費納入等で支援してもらう特別会員や支援会員など四種類の会員、合わせて五つの会員で構成されています。ちなみに正会員は現在149名（正会員の宗派別人数は表②参照）です。

編集部 活動内容を拝見すると、多岐にわたっています。やはり仏教テレフォン相談が活動の中心になるのでしょうか。

長谷川 はい、当センターは月曜日から金曜日、3台の固定電話で相談を受けています（正月、盆などを除く）。曜日別で担当宗派（表③参照）を

決めています。設立と共に仏教テレフォン相談が開設され、以来37年間でおよそ18万件の相談を受けています。近年は年間約4000件です。

編集部 すごい数ですね。テレフォン相談の最初は1953（昭和28）年に始まった英国での自殺防止の為にのちの電話で、日本でも1971（昭和43）年から始められています。その12年後に貴センターが設立し、3年後に大阪仏教テレホン相談などと続き、現在では、こころのホットラインなど多くの電話相談がありますね。

長谷川 そうですね、もともと宗教は人々の相談の窓口の役割も果たしていたわけです。教会での懺悔しかり、女性が駆け込むのもお寺でした。時代や場所は異なっても宗教は人々の心の拠り所であつたわけです。日本では江戸時代の檀家制度で人々が寺院と結びつけられましたが、明治の廃仏毀釈以来、大正、昭和、平成とその結びつきは薄くなってきています。今は寺院や僧侶と人々の距離が近いとは言えず、仏教の教えに触れる機会もほとんどないでしょう。

編集部 そうした中、電話一本で僧侶に相談でき

るとというのが、貴センターの特徴でしょうか。

長谷川 私は設立の翌年から携わっています。当初はお布施の額や、仏壇、葬儀、先祖供養、建墓といった仏事に関わる相談が多かったのですが、15年位前から人生相談が急増しています。一応、電話を受けた僧侶が電話後に相談内容を既存の項目に振り分けます。人生相談の項目が多いのはその一覧（表④参照）を見れば一目瞭然です。

編集部 仏教に関わる相談というより、悩み相談や生活相談といったものですか。

長谷川 はい、幸い当センターはテレフォン相談としては歴史もあり、またマスコミにも多く取り上げられてきました。加えて役所の窓口が相談先として当センターを紹介することも多く、電話をすれば必ず僧侶が出てくれるという特徴を知った上で電話がかかってきます。ですから僧侶と話したい、という相談者が多いですね。

編集部 やはり僧侶というのは特別な存在ということでしょうか。

長谷川 人々の間に「僧侶はこうあるべき」という固定観念が残っていることも事実だと思いま

す。それが明確にわかるのが、年間に120件ぐ
らいある苦情の電話です。

編集部 苦情とは僧侶へのものですか。

長谷川 はい、月に10件ぐらいですから全体から
見るとはたいした数ではありませんが、それに応
える相談員はとてつらい気持ちになります。中
でも多いのは金銭に関わることで、離壇料や葬儀
での布施。寺からの要求額が想像を超えることも
多く、信じられない気持ちにさせられます。そし
て中でも気になる苦情は、法事や葬儀での法話が
ないこと、あつても世間話や自慢話でむしろ聞き
たくない話だったという苦情です。

また、境内が掃除されていない、奥様に関する
苦情、さらに町内会への活動に非協力といった話
もあり、僧侶の前に一社会人として問題だという
指摘も受けます。こうした電話は辛いものです。

編集部 なるほど。

長谷川 ですが、こうした苦情電話を通して感じ
ることは、一般の人々が、本当は僧侶に寄り添っ
てもらいたいと期待しているということです。本
当は僧侶を尊敬したい、頼りたいからこそ、逆に

失望し怒りが出ている、と感じます。

編集部 長年にわたり色々な電話を受けてこれら
れて気付くことですね。

長谷川 そうですね、開設当初は一本の電話相談
で大変疲れました。まだ30代の頃で、相談を通じ、
人間関係・家族関係の難しき、経済感覚の違い、
そして社会問題など、誤解を恐れず言えば勉強に
なることばかりで、いい意味で鍛えられました。

編集部 ひと昔前までは電話料金やかける場所な
どの制限がありました。今は携帯電話で通話時
間や場所が自由になりましたね。

長谷川 そうですね、一応私たちは長くても20分
を目処に話を終えることにしていますが、相談の
内容によっては電話を切ることができなくなり、
2時間、3時間ということもたまにあります。ま
た、頻回者というのですが、毎日電話をかけてく
る方もいます。恐縮ですが、そういう方は時間で
切らせていただくようにしています。

編集部 相談員間の情報共有や相談時の決め事
はありますか。

長谷川 もちろんです。仏教に関わることにはで

きるだけ相談者と同じ宗派の相談員に伝えてもらえるようにしています。また、人生相談は一般的には傾聴を基本にします。どんな話もしつかり根気よく聴き、意見や方向性を出さずに寄り添うのですが、当センターでは仏教と冠しているので、人生相談でもできるだけ相談内容に関わる仏教の教えやたとえを伝えるようにしています。

当センターの相談員の心得に「電話による対機説法と心掛ける」、「一期一会の菩薩行と捉え愛語の実践を心得る」といったものもあります。

一方、「特定の宗教的・政治的理念、教義、布教の押し付けはしない」、「宗派による違いがあることを十分意識して対応する」といった心得も大切になっています。

編集部 相談員が僧侶限定となると、一般的な電話相談とは異なりますね。となると相談員の資質や適性も必要になりますか。

長谷川 相談員の研修は大切にしています。対応次第では仏教に帰依してくれることもあれば、仏教を嫌いになることもあるかもしれません。相談員一人ひとりの意識や対応力が大事です。

編集部 相談の一例をお聞かせいただけますか。

長谷川 「会社の部署が替わり、新しい人々とうまく人間関係が作れない」という30代の男性からの相談に私は、「仏教には自分のスキルをアップさせるための教えとして、六波羅蜜行という教えがあります。その一つに忍辱行という修行があり、我慢するのではなく、ただ自分をするべきことをして時間が過ぎるのをじっと待つという教えです。人に気を遣うのではなく、自分のなすべきこととやるだけ。そこからではないですか」と応えました。相手の方は明るい声で、「そうしてみます」と言ってくれました。

編集部 仏教の教えに結びつけるんですね。最後に受賞を受けての今後の抱負をお聞かせ下さい。

長谷川 受賞はひとえに長年にわたる先輩僧侶、相談員の方々の絶え間ない努力、支援いただいたいる方々の賜と深く感謝申し上げます。これからも「人に、社会に、寄り添う仏教をめざして」活動を続けていきたいと思っています。

編集部 ありがとうございます。

表① 【活動内容】

出張相談	年に一度仏教街頭相談（現在は築地本願寺境内）を行っています。
面接相談	希望者の予約制で行っています。会場は当センター事務所にて。
出版物	機関紙『仏教ライフ』（年4回発行）『ライフカレンダー』を主に会員寺院に発行。
語り場提供	「いのちをみつめるつどい」を年8回都内のお寺を会場に開催。 // 講師の話、茶話会、懇談会がセットで約30人が集う。
ライフサークルの集い	年一度関東近郊の名利、古刹を訪ねる日帰り旅行会開催。
講演会・講座などへの講師の派遣	専門学校へ講師を派遣して来た。（現在はコロナにより休校）

表② 【所属する宗派と正会員（相談者）数】

天台宗	5名
真言宗(新義派、古義派)	38名(新26、古12)
浄土宗	24名
浄土真宗本願寺派	22名
浄土真宗大谷派	15名
臨済宗	2名
曹洞宗	20名
日蓮宗	23名

表③ 【電話相談の曜日別担当宗派】

月曜日	臨済宗・曹洞宗
火曜日	浄土真宗本願寺派／真宗大谷派(隔週)
水曜日	日蓮宗
木曜日	浄土宗
金曜日	天台宗・真言宗古義／真言宗新義(隔週)

表④ 【電話相談の内容とその割合】(2018年度)

人生相談	64.4%
信仰の意味、教義、仏教文化や学問	12.5%
葬儀、法要、供養、永代供養	4.2%
戒名、法名	0.7%
寺院、僧侶、規制教団の在り方や運営	2.0%
仏教の年間行事、特殊法要	0.4%
家庭での祀り方やお勤めなど	1.9%
仏事の常識やマナー	1.4%
規制寺社の祈願、祈祷	0.4%
占い、迷信、靈感商法	2.2%
お骨、埋葬、墓地、墓石	6.1%
ペット、針、人形などの供養	0.1%
その他	3.3%

表⑤ 【相談者の男女比】 (2018年度)

男性	36.4%
女性	60.6%
不明	3%

水道橋の事務所での電話相談。



巣鴨高岩寺境内での出張相談。





微

風

吹

動

厭離穢土 欣求淨土

釈尊よ、どうかお願いでございます。

私のためにどこでも結構ですので、

悩み苦しみが無い世界を説き示して下さいませ。

（『仏説観無量寿經』浄土宗総合研究所編『現代語訳浄土三部經』より）

石田一裕

二〇〇四年三月十一日午前、スペイン・マドリードは騒然としていた。街中でサイレンが鳴り響き、テレビではアナウンサーが深刻そうに何事かを話している。しかし、私はスペイン語が全くわからず、何が起きているかも理解できない。そんな中で観光客として市街を歩いていた。昼過ぎ、アトーチヤというマドリード最大の駅で爆発があったようだという情報に接した。帰国後、それが大規模なテロであったと知り、詳細を把握するにつれ背筋が冷たくなっていった。

このスペイン旅行は、バックパッカーとしてマドリードとバルセロナを観光しようと、航空券と初日の宿だけを予約して日本を出発して始まった。バルセロナを訪れガウディやダリの作品、あるいはロマネスク美術などに数多く触れることができた。六日間の滞在を経て、三月九日、バルセロナ・サンツ駅発の夜行列車に乗って、翌朝マドリードに到着。この時、バルセロナでの滞在を一日伸ばしていたら、何らかの形でテロに巻き込まれていただろう。これが背筋の冷たくなった理由である。

もちろん、当時の自分はそんなことはわからず、日本とは違う風土、景色、歴史を感じながら、気ままな旅行をしていた。しかしながら、そんな中にもゾゾッと身震いする体験があった。

パブロ・ピカソのゲルニカは、爆破事件が起きたアトーチャ駅に
ほど近いソフィア王妃芸術センターに鎮座している。一九三七年パ
リで描かれたこの絵は、その後アメリカ大陸に渡り、一九八一年、
画家の生地であるスペインに返還された。

ピカソの作品の中でも最も有名なこのゲルニカは、中学生の頃、
手のひらに収まるほどの大きさで美術の教科書に掲載されていた。
実物は高さ3メートル以上、横幅7メートルを超える巨大な絵画で、
その前に立つと自分がちっぽけな存在に感じられた。その感覚は、
物理的な大きさだけに由来するものではなかったように思う。

この絵の前に立った時に感じる凄まじさ、ゾゾつとする感じは忘
れられない。反戦画とされるモノクロームの絵画は、彼自身が感じ
た悲惨な現実を伝えようとしていた。日本から西に一万キロ離れた
スペインでゲルニカを前に、この世の地獄、穢土の一端に触れるこ
とができたのは貴重な体験であった。

というのも、それまでの私は戦争といえばテレビの向こうの出来
事であり、また肉親と死別するという堪え難い経験をしたこともな
かった。穢土というのは、理念的な何かだと想像していた。その認
識が揺さぶられ、この世は現実として堪え難い姿を表すという思い
が生じたのである。

古代インド、マガダ国の王妃韋提希は息子の謀反により、王である夫と離れ離れになり、さらに自分自身もその息子によって殺められそうになった。王舎城の悲劇といわれる壮絶な体験をした彼女は、この世が穢土であることを身をもって感じ、心からこの世界を厭い、釈尊に苦しみがない世界を説いてほしいと懇請する。それに応えて釈尊は多くの清らかな世界を彼女に見せた。それは苦しみに喘ぐ彼女にとっての希望となり、その中に求めるべき世界として極楽浄土を見出したのである。

彼女にとっては、目の前の穢土も、釈尊が見せた浄土も、ともに眼前の現実であり、厭離穢土欣求浄土は切実な問題であった。この世に対して深く嘆いたその時に、鮮やかに映し出された極楽浄土を見た彼女はこの光景を心にとどめ、その世界のありのままを感じ取りたいと願う。釈尊はそれを受けて、その方法を説き示した。

人の描いた一枚の絵画から、私たちは穢土の一端を感じ取ることがある。阿弥陀仏が浄め、釈尊が現し出した極楽浄土の様相は、この世に絶望する人間のたいなる救いであつたに違いない。

穢土に生き、穢土を知り、穢土に触れ、浄土を請い求める。ゲルニカが描いた戦争の悲惨さ。それを思い出すべき日本の夏がやってくる。

第三十九回

江戸を歩く

江戸の川

江戸ウォーカ―

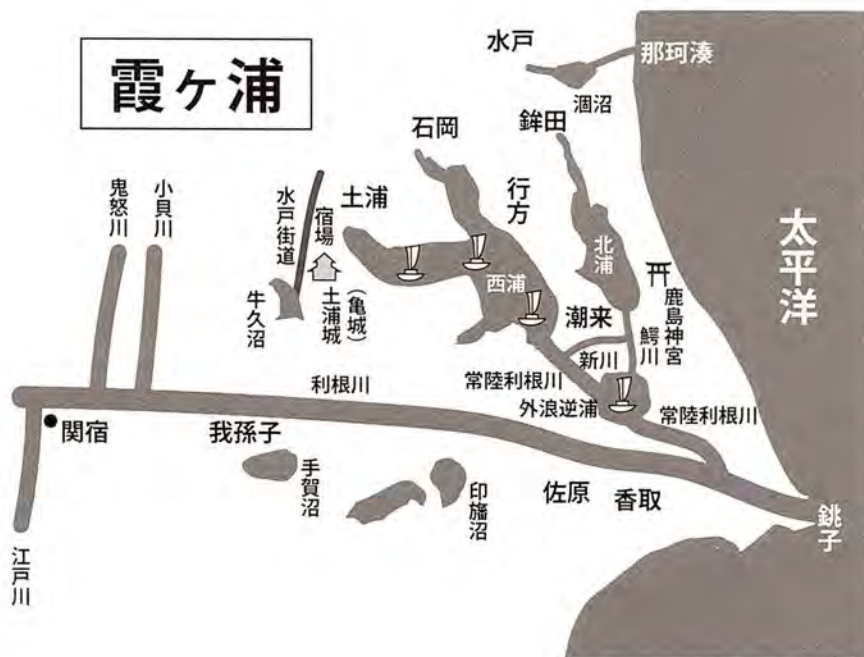
森清鑑

霞ヶ浦(1)

霞ヶ浦は、水戸の南から、利根川に向かつて存在する数個の湖をさす。霞ヶ浦は、主に三つの湖で構成されている。まず、土浦、石岡から南に広がる最も大きな「西浦」。地図では、この西浦を霞ヶ浦と明記、象徴させている。次に水戸、湊沼ひなまのずつと南から鹿島灘に沿って細長く伸びている湖が、「北浦」である。この西浦と北浦からの流れが南で一緒になり、流れ込む、比較的小さな湖が外浪さきうら逆浦（潮来）。

地勢

なぜ、このような地勢ができたのか。十二万年前、江戸湾を含めて、この関東平野は海であった。七万年前には氷河期を迎え、潮が引き、陸地が現れる。その後、富士山をはじめ近隣の山々が一齐に噴火。火山灰が体積、関東ローム層ができる。そして一万数千年前から再び温暖化が始まり、潮が上昇し、江戸から水戸の近くまで海と陸地の光



景となる（縄文海進）。霞ヶ浦の各地から貝塚が発見されるのは、このためである。海の入江みたいな環境で縄文人は、貝や魚を食していたのである。

中世の地形

四世紀から七世紀にかけて古墳時代が到来する。この地にも豪族が誕生し、ヤマト王権との接触が始まる。中世の湖と川の流れ、形状は、現在と全く異なる。西浦（香澄流海）はもっと大きく、北浦（鹿島流海）はほぼ同じだが、外浪逆浦（外浪流海）に至っては東西に大きく広がっており、牛久沼、印旛沼をも含みこんでしまっている。この時、鬼怒川、小貝川は、東へ向かうずっと大きな流れで、今の牛久沼（外浪流海）のところに流れ込んでいたのである。外浪流海はここからやや細長い流れ（常陸川）となって、銚子で海に出る。つまり太平洋と繋がるわけである。この地勢から察するに、当時の霞ヶ浦は満潮時、まともに上げ潮になり逆流、霞ヶ浦になだれ込む状況であった



と想像できる。

この時、関東の主役、利根川は、同じ西からの荒川、綾瀬川の流れを加え、まっすぐ江戸湾に向かっていたのである。

利根川の東遷

家康は一五九〇年江戸に入ると、大都市江戸を構想し、物資の運搬路として、全く新たな船運路開発に着手する。それは、利根川を霞ヶ浦の流れ（常陸川）に繋げ、銚子へ向かわせる工事。これを「利根川東遷事業」という。その上で関宿から江戸湾に向かう江戸川を掘削、整備する。これは利根川のかつての流れを利用したもの。そして霞ヶ浦に流れ込んでいた鬼怒川、小貝川を南の利根川に直結させた。さらに霞ヶ浦の干拓を進め、牛久沼、印旛沼、手賀沼を独立させている。当時、川は現代の高速道路みたいなもの。利根川東遷を含めた霞ヶ浦の整備は、治水、灌漑、船運。正に一石三鳥の成果をもたらす。

霞ヶ浦（西浦）

茫洋と広がる、面積百七十二平方キロの湖。限りなく美しく、のどかな風景。あの特徴のある大きな帆を膨らませた帆曳船があちこちに浮かび、漁をしている。ここには、桜川など計十七本の川が流入している。江戸時代には、鹿島灘からの海水と、複数の川の真水が入り混じった汽水湖で、ワカサギ、白魚、タナゴからウナギまで豊富な種類の漁獲を誇った。

土浦

霞ヶ浦（西浦）の北側は、二つに分かれる。西の入り江が土浦、東の入り江は常府（石岡）。土浦には貝塚あり、古墳あり、古代から常陸を代表するところ。常府（石岡）も「常陸の国」の国府が置かれたところで国分寺の跡もある。

この辺り一帯は小田氏が治めていたが、家康は江戸に入府すると次男の結城秀康を土浦の盟主に。霞ヶ浦が一望できる土浦城（亀城）と湖に向かつ

て城下町を整備する。その後、土浦は、江戸時代を通じて水・陸運搬の中継地として発展していく。幕府は土浦を重視し、水戸街道を通して、ここに宿場を設けた。本陣、宿場、商家が立ち並ぶ繁栄。水戸街道はこのあと北東に進み水戸城の真下に到達する。こうして土浦は、陸上、物資運搬の要となる。さらに土浦は霞ヶ浦船運の集積港となり、水戸、東北からの物資を船に積み替え、利根川に繋げる中継地、船運基地と化し、大発展するのである。結果として、江戸時代、土浦は、水戸に次ぐ規模の都市に発展した。

現代に入ると、戦前は有名な海軍航空隊基地。

「若い血潮の予科練の……」歌にある通りの操縦訓練基地となった。これも霞ヶ浦で水上機訓練ができ、陸上では、離着陸飛行訓練ができる、日本海軍にとって最適の訓練基地としてここが選ばれたのである。

桜川が湖に注いでいる。振り返ると亀城が見える。水害時、水に浮かぶ、亀の甲羅のように見えたところから、別名、亀城。船は土浦漁港を出る。

潮来

広々とした湖。やがて湖は一段と広がる。遙かに見える、両沿岸部の土手の先には、広大な田畑が広がっているはず。舟を進めて左を見ると、もう一つの入り江が見える。左に迂回すれば、常府の湊に着く。中央をまっすぐ進む。あちこちに巨大な帆をはらむ帆曳き舟が浮かんでいる様は、正に、霞ヶ浦そのものを感じさせる。遠い左岸の先に行方の家並みが点在しているはずだ。ややあつて、前方に出口が見える。出ると、広い川。常陸利根川という。この川を下る。川の左は、潮来である。

まもなく、左側を見ると、潮来側から前川が流れこんでいる様が見られる。その河口は繁盛している。この川は潮来の東西を横切つて鰐川（北浦）に繋がるので潮来水運の重要な役目を果たしている。河口から両サイドに蔵が並び、河岸が連なる。江戸時代、東北の各藩から運ばれてきた年貢米など各藩の河岸に保管された。潮来は大規模な中継地として栄えた。

潮来は現代では水郷の町。その、のどかで美しい景色は、すばらしい。前川河口でサッパ船（櫓を使う手こぎ舟）に乗り換え、水郷巡りを楽しもう。ちよつと行くと舟の右側にアヤマ園が広がる。美しい。まもなく、左側にきれいに整備された河岸があり、舟を下りて上がる。津軽河岸跡と、旧家磯山邸。この辺に仙台河岸もあるはず。東北各藩の河岸が集中。水戸藩が潮来を管理するようになると、水戸光圀は、「板来」（常陸風土記）を今の「潮来」に名義変更。旧家磯山邸は、明治初期の建造物で、現在の観光スポット。潮来の繁栄が伺える立派なものである。

河岸の西北に長勝寺（臨済宗）がある。稲荷山古墳（稲荷山公園）を背に縦長の広い寺域を有し、格式の高い寺社である。創建は源頼朝。ここで奥州征伐の戦勝祈願。緑の下、長い参道を歩くと、豪華な山門が見える。これは、水戸光圀が寄進したもの。さらに長い参道が続き、本堂が姿を現す。禅寺の風格。庫裡・書院には水戸徳川家ゆかりの宝物を収蔵。水戸徳川家がいに潮来を重要視し

ていたかが伺われる。

現代では、水郷観光の町。前川の河口から北浦・鰐川までを巡る「前川十二橋巡り」、花嫁が旧家磯山邸で衣装を整え、嫁入り舟に乗り、河口の縁結び、祈念場所では花婿と一緒に祝福される「嫁入り舟」のイベントは川端に立ち並ぶ大勢の祝福客の声援を受けて、潮来の名物になっている。

外浪逆浦

左、前川河口を見て、常陸利根川をそのまま進むと比較的小さな湖に入る。それが外浪逆浦である。この湖は江戸時代に小さくなったが、中世には、牛久沼、印旛沼まで続く大きな湖であった。その名は満潮時、太平洋の海水が押し上げて来る湖を意味している。豊かな汽水域の漁獲が可能で、現在でもボラ、シジミの漁獲量は茨城県第一位。湖の北側は潮来である。舟を湖面の中央に。左を見ると大きな川が流れ込んでいる様が見える。これが鰐川。もう一つの湖、北浦と繋がる水路である。

（つづく）

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月

を求めて

前田和男

第一〇八回

第三部

充実と稔りの白秋へ

渡沢栄一との縁にみちた長文 その七



タゴール来日の歓迎ぶりに異議あり！

前述したように、洪沢栄一とラビンドラナート・タゴールとは、二十歳以上の年齢の差と実業家と詩人という両極端な「職業」の違いを超えて、初対面にもかかわらず、いきなり意気投合した。

いっぽうの渡辺海旭はどうだったか？ 住んでいる世界が近いことから、洪沢以上に打ち解けると思いきや、実は案に相違してその真逆で、非妥協的でした。

東洋初のノーベル文学賞詩人がはるばる来日するということで、新聞各紙が期待感をあおるなか、巷間は歓迎ムードであふれかえっていた。これに対して、海旭は主筆をつとめる「浄土教報」に「タゴール翁の来朝」と題して、歓迎ムードに水をさす、なんとも辛辣な批評を展開した。（『壺月全集』下巻、二三五―二三六頁）

こんな概要である。

*

哲学も文芸も宗教も、一切の思索、一切の批評、ことごとく昏睡し、微塵も生氣なく活動なき時にあたって、老詩人の来朝は、恰も大旱に雲霓をみる観がある。宰相大臣から貴族富豪学者まで、仏教徒もキリスト教徒も芸術家も学生も婦人も万国一斉、さながら聖典ベータ時代の詩仙が現代に甦ったと、賛美をして大歓迎をしている。

自らの信仰が一神、多神、あるいは無神たるとを問わず、この詩人に花輪を捧げようとしている。外客に対するかくのごとき歓迎ぶりは近時例がない。来日が噂されるマキシム・ゴーリキーも足元にも及ぶまい。

タゴール翁に対するこの熱烈な敬慕にはいくつか理由が考えられるが、二つあげると、翁が東洋の偉人であることと、親縁思想の復活を喜んでのことと思われる。

しかし、それは日本の思想の枯渇から生じた渴仰の念によるものにすぎない。

今や、宗教界も学界も暗中模索状態にあり、インドの一老翁にその煩悶の解決を求めようとして、無意識のうちにその指導を仰いでいるのであって、はたしてそれでいいのか。

高処からみると、わが帝国文運のためには慚愧の極みである。

翁の説くところは、ベルツ博士がわが国のペスト予防法を問われて「猫を飼え」と応じたのと同筆法である。これは意表をつく達人の言にて、日本人を啓蒙させること少なくともない。だが、わが思想界は老翁から何かを得んとするよりも、彼に何かを与える責任があることを自覚すべきではないか。

幕府時代においても、遠く清韓からの賓客に対して、当時の儒学者たちは大いに「詩酒唱和」し「日東文学」の体面を保つことを忘れなかった。

しかるに、今回においては、能楽三曲と日本料理の接待をもって事足れりとし、思想上の唱和がさっぱりないのは、わが帝国の学者・

詩聖タゴール



芸術家にとつては決して名譽なことではない。たしかに大乘寛容の精神で翁の歡迎のために奔走するのは実に喜ばしい。また仏教とキリスト教を一致させ、芸術宗教を総合せしめて翁のために「東洋思想開拓」にむけて労するのであれば、これも称賛すべきである。

しかしながら、仏教徒としてはあくまでも翁に何物かを与え、少なくとも日東の地を踏んで仏寺の鐘声に耳を澄ました彼には、仏教の何たるかを理解させる責任がある。

そもそも仏教徒であれば、阿羅羅(アーラーラ・カーラーマ)と迦羅羅(ウツダカ・ラーマブッタ)の二人の仙人が外道たるを知り、発心前の迦葉三兄弟が婆羅門たるを学んでいる。現代の阿羅羅と迦羅羅であり迦葉であるタゴールには、大乘の正道へ入ってもらうべ

きではないか。

タゴールが信奉するブラモ・ソマージュ（ヒンドウ教の改革派）、すなわちインドのユニアン教は、わが大乗統攝誘導の玄理を得てこそ、その根柢を強固にし活機を大きくすることができるのである。

東京での複雑繁華な礼儀講演歓迎は一段落を告げ、今インドの詩聖は旧友の故岡倉天心の別荘地、五浦の海濤と涼風のなかで詩想を凝らしている。

わが仏教徒の中に、タゴールに『父子相迎』の教えを訳伝し、あるいは『碧巖録』を理解せしめる好漢はいないものか。かの恵心僧都以後九百年、日本の宗教界には大詩人もなく大芸術家もなく、遠来の客に法華の『大王膳』を供することがないのを恨むばかりである。

仏教徒はタゴールを大乘の玄理へと導く
気概をもて！

いやはや恐れ入った。海旭一流の修辭（レ

トリック）を用いて巧みにタゴールを持ち上げつつも、ヒンドウ教の改革派のブラモ・ソマージュの信奉者であるタゴールは、所詮は釈迦が教えを求めた仙人の阿羅羅と迦羅羅であり、釈迦の弟子になる前の迦葉（三兄弟）レベルでしかない、いずれも悟りをひらいた釈迦には遠く及ばない。釈迦の教えに帰依したわれらがタゴールに「大乘仏教」の精神を理解させ、外道から正道へ導いてやらねばならぬというのである。

そして、同僚たる日本の教家たちにむかつては、ノーベル文学賞風情にへこへこするな、そんなことより、阿弥陀と衆生の關係を父子になぞらえた『父子相迎』を、中国宋の時代の禪文学の白眉『碧巖録』を、さらには釈迦が「大王の膳（そなえ）」と説いた『法華經』をタゴールに進講するぐらいの気概を持てとまで迫っている。

海旭のこの過激きわまりない言説は、おそらく洪沢にも届いてさぞや当人を驚嘆させた

ことだろう。

海旭も宗門を代表するメディアでここまで言い放ったからには、タゴールの初来日時に数多く催された歓迎イベントには参加しなかったはずであり、渋沢と会うこともなかったと思われる。

となると、「タゴールは渋沢と海旭の仲を取り持つ『月下氷人』である」という筆者の『先触れ』は、いったいなんだったのかと読者諸賢からはお叱りを受けそうである。

ちよつとお待ちいただきたい。

タゴールは生涯で五回来日しており、うち二回は数日の立ち寄りで、一か月以上滞在しているのはそのうち三回だが、海旭が熱烈歓迎ぶりに違和と異議を唱えたのは初回である。それから八年後の大正十三年（一九二四）の三度目の来日時には、渋沢はタゴール歓迎式典を主催した後に、「日印協会」の会長として海旭に新理事就任を要請。さらに最後の来日となる昭和四年（一九二九）には、海旭

は、渋沢の飛鳥山の私邸での歓迎会に呼ばれただけでなく、その後の歌舞伎座の観劇にも、ごく限られた渋沢の側近の一人としてタゴールに随伴しているのである。

明らかに初来日以後のどこかで、タゴールと海旭の関係が反転したことは間違いない。いったい何があつたのか？

筆者の妄想するところ、その反転を促したのは渋沢ではない。タゴール自身からのたつての要請があつたのではないか。大乘仏教を教えてやるとまで虚仮にされたノーベル文学賞詩人がそこまで折れるかと訝られるかもしれないが、そう推理するしかない傍証があるのである。その重要なカギを握っているのは、当時インドの統治者であつたイギリス提督を襲撃して日本へ亡命した独立運動の闘士ではないかと睨んでいるのだが、ちょうど紙幅がきれたので、その謎解きは次回に譲ることにしよう。

（つづく）

暑中お見舞い申し上げます

令和二年

浄土宗総本山知恩院門跡
浄土門主

伊藤唯眞

大本山 増上寺
法主

八木季生

大本山くろ谷 金戒光明寺
法主

久米慶勝

大本山 百萬遍知恩寺
法主

福原隆善

〒606・825
京都市左京区田中門前町一〇三

大本山 清浄華院

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

柴田哲彦

鎌倉市材木座六・十七・十九
TEL 〇四六七（二二）〇六〇三

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

〒380・0851長野市元善町五〇〇

暑中お見舞い申し上げます

令和二年

浄土宗務総長

川中光教

法然上人御誕生地
浄土宗特別寺院

美作
誕生寺

〒709-3602 岡山県久米郡久米南町里方八〇八
TEL 〇八六 (七二八) 二二〇二
FAX 〇八六 (七二八) 二二六二

(学)大乘淑徳学園
理事長

長谷川匡俊

〒174-8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園
淑徳S.C.中等部高等部

理事長
校長 麻生諦善

赤坂六地藏尊

浄土寺

住職 阿川正貫

〒107-0052 東京都港区赤坂四・三・五

鶏頭山安楽寺

飯田實雄

〒399-4115 駒ヶ根市上穂栄町九・五
電話 〇二六五 (八三) 二二二六〇

清水湊

忠高山
實相寺

〒112-0002 東京都文京区
小石川三丁目十四番六号

無量山
傳通院

電話 〇三 (三八一四) 三七〇一 (代表)

家康公祖母菩提所

玉桂山
華陽院

住職 堀田卓文

勝願寺

〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三一
電話 〇四八 (五四一) 〇二二七

暑中お見舞い申し上げます

令和二年

九品阿彌陀如来

淨眞寺

〒158-0003

世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

岩淵

天王山
正光寺

〒115-0041

東京都北区岩淵町三十二・十一

無縁寺

回向院

〒130-0006
東京都墨田区両国二・八・十
電話〇三(二六三四)七七七六

投込寺 淨閑寺

戸松秀明

〒116-0003

荒川区南千住二・一・一二

古今伝授の寺

天主君山 願成寺

〒411-0002

静岡県三島市川原ヶ谷十八
住職 魚尾孝久
メールマガジン ganjuji.com

塩竈市 雲上寺

東海林良雲

五劫山 愚鈍院

〒984-0001

仙台市若林区新寺三・十一・十七

寿福山 寛慶寺

水科善隆

〒380-0802
長野県長野市東之門町四〇六番地
電話〇二六(二三三)一八一二

大吉寺住職

アジアカヌー連盟 会長
国際カヌー連盟 執行役員
公益社団法人 日本カヌー連盟会長

成田昌憲

〒154-0017

世田谷区世田谷四・七・九

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38

電話 03 (3404) 8447
ホームページ

<http://www.baisouin.or.jp>



「のらくろ寺」・「のらくろ和尚」
住職 飯島英徳

北海道室蘭市
満岡寺・善行寺
(0143) 22・4677・44・2695

暑中お見舞い申し上げます

令和二年

浄土宗東京教区
教区長

高橋誠実

無量寺
〒158-0097 世田谷区用賀四・二十・一

浄土宗東京教区教化団団長
浄心寺住職

佐藤雅彦

〒113-0023 文京区向丘二・一七・四

鎌倉大仏殿

高德院

〒248-0016 鎌倉市長谷四・二・二八
電話 ○四六七 (一一二) 〇七〇三
FAX ○四六七 (一一二) 五〇五一

浄土宗議会議員
埼玉県佛教会副会長

蓮馨寺

住職 衆原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七・一
電話 ○四九 (一一二) 〇〇四三
FAX ○四九 (一一二) 〇六七六

浄土宗東京教区教区議会
議長

村山好信

良信院
〒135-0022 江東区三好三・七・五

願行寺

佐藤久雄

〒140-0004 品川区南品川二・一・一二

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四・一二・八

森巖寺

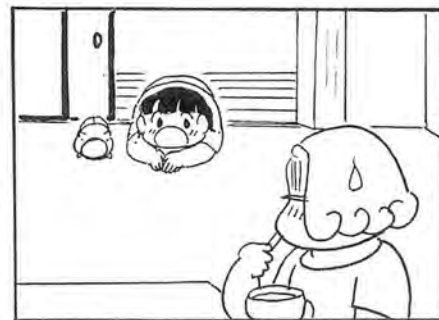
加藤昌康

〒155-0002 世田谷区代沢三・二七・一

かまち♡ようろう

172

かい目



かまちよろう先生作新聞四コマ漫画「ゴンちゃん」が各地方新聞に掲載されています。(京都新聞・静岡新聞・日本新聞・福島民報・宮崎日日新聞・新日本海新聞・神戸新聞・岐阜新聞・中国新聞・四国新聞・徳島新聞)

が各地方新聞に掲載されています。(京都新聞・静岡新聞・山梨日日新聞・北
神戸新聞・岐阜新聞・中国新聞・四国新聞・徳島新聞)

編集後記

盆参り行つていいやらわるいやら 俗潤

四月の終わりの東京新聞の「筆洗」にこんな記事があった。ノーベル賞を受賞した本庶佑さん^{ほんしよゆうさん}の著書『幸福感に関する生物学的随想』の中に、人間が幸福を感じる仕組みについて、こんな文章があるそうだ。「人間はカネや名譽を満足させることで得られる幸福感には限界や飽きがくる。むしろ、人が幸せを感じるのには恐怖や不安感がないときだろう。そしてその幸福感も相対的なものであつて、永続的に幸福を感じるためには、時折の軽い不安感によつて、そのありがたみを確認する必要がある」というのである。

カネや名譽よりも恐怖や不安感がないというところまでは仏教と共通の幸福感を連想できたが、その先の時折の軽い不安感が必要という言葉には驚いてしまった。確かに「平和ほけ」などという言葉もあるように、時々刺激が欲しくなるのが人間かもしれないが、ちょうどいい軽い不安感なるものはあるのだろうか。コロナ禍が続く中、この不安は決して軽い不安ではなく、うつ病化する方も出るほどの不安感であるが、この不安感を自身でコントロールして、軽くしてゆく以外方法はなさそうだ。

人間は心と身体で生きている。健康も両方のバランスが必要だ。ソーシャルディ

スタンスはただ単に人を遠ざけることではないはずだ。このコロナ禍の中、むしろ大切なものをしっかりと見直し確認できれば、永続的な幸福が手に入られるかもしれない。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川俗潤
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
村田洋一
本原亮道

雑誌『浄土』
特別、維持、賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
蔵谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
加藤昌康(下北沢・森巖寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤久雄(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
河本悠大(函館・称名寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉祥寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多将敬(両国・回向院)
松濤泰彦(芝・寶松院)
水科善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp/>
メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

浄土 八十七巻 七八月号 頒価六百円 昭和十年五月二十日第三種郵便物認可 印刷 令和二年六月二十日 発行 令和二年七月一日	発行人 佐藤良純 編集人 加藤昌康 印刷所 株式会社 暁印刷 〒一〇五・〇〇一 東京都港区芝公園四丁目四番地 西明照会館四階	発行所 法然上人鑽仰会 電話 〇三・五七八・六九四七 FAX 〇三・五七八・七〇三六 振替 〇〇一八・八・八二八七
--	---	--

写仏、写経、写詠歌のご案内

- 1 A4版の奉書の手本に筆ペンで直接なぞります。
- 2 写仏の仏画は仏師（前田昌宏師）のオリジナル。
- 3 写経は浄土宗日常勤行式です。
- 4 写詠歌は法然上人四季の和歌と宗歌「月かげ」他。



申し込み日 年 月 日

お名前 個人

寺院 教区 組 寺・院 寺院番号

お電話

ご住所 〒

写仏(6枚1組入り) 頒価:2,000円 セット

※ 3組 5,000円、10組 18,000円他割引きあります。

写経(12枚5組入り) 頒価:6,000円 セット

※寺院名 () 入れる(無料) 寺院名 () 入れない

※三奉請(関東)と四奉請(関西)をお選び下さい。()三奉請 ()四奉請

写詠歌(5枚10組入り) 頒価:5,000円 セット

※送料、消費税は頒価に含みます。同封の請求書でお支払い下さい。

※お届けまで 2 週間ほどかかります。

※ 写仏と写詠歌は 1 組からでも注文できます。詳細はお問い合わせ下さい。

《お申し込みは本頁をコピー、ご記入の上、当会へご注文下さい》

法然上人鑽仰会

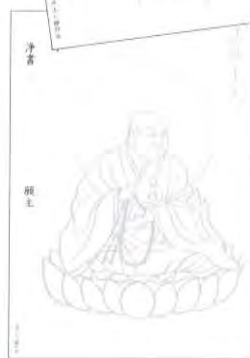
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階

FAX : 03 3578 7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

TEL : 03 3578 6947

仏さまを 写しましょう

当会オリジナルの「写シリーズ」に
写仏が新登場。ゆっくりした時間のなか、
ご自宅で仏さまや法然上人のお姿
をなぞって心を通わせましょう。



【写仏】6枚1セット

阿弥陀如来

観音菩薩

勢至菩薩

薬師如来

地藏菩薩

法然上人

※
お申し込みは
裏面へ

法然上人鑽仰会

〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 4 階
お問い合わせは FAX またはメールでお願い致します。

FAX : 03 3578 7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

TEL : 03 3578 6947